

# Tokyo Gakugei University International Secondary School

2019年度 学校案内

東京学芸大学附属国際中等教育学校





# 国際社会に「いきる」力を育てる



## TGUISSの目指す教育

本校は、多様で異なる人々と、共生・共存でき、進展する内外の国際化の中で活躍する力を持った生徒を育てる6年間の中高一貫教育を行う学校です。帰国生徒や外国籍生徒を広く受け入れると共に、一般の生徒に対しても国際社会で活躍できる力の育成を目指します。本校では教育目標として次の4点を掲げています。

1. 世界に生きる学力と教養を身につけよう。  
The school will help students to acquire global knowledge.
2. 多様な表現力やコミュニケーション能力を育もう。  
The school will help students to strengthen communication skills.
3. 知・心・身体のバランスを大切にして成長し続けよう。  
The school will help students to mature in knowledge, mind and body.
4. 多様性の意義を認識するとともに、寛容性・耐性(トレランス)を育もう。  
The school will help students to appreciate diversity and foster acceptance, empathy, tolerance and respect.

### 世界で生きる。世界を生かす。

本校は平成19年創立の若さあふれる中等教育学校です。中高6年間の一貫したカリキュラムのもと、国際理解・人間理解・理数探究を3つの柱とした教育を実践しています。

創立以来、「グローバルな視野の育成」「多文化共生の教育」「多様性と共通の価値・ルールの確立」「社会参加を通じた市民性の育成」「基本的な知識・技能の習得と特色ある中等教育のカリキュラムの開発」を教育理念として、異文化への寛容や耐性を持ち、社会に発現する様々な課題を読み解く力を持った生徒を育成してきました。

本校は、国際バカロレアワールドスクール、ユネスコスクール、スーパーサイエンスハイスクール、スーパーグローバルハイスクールなどさまざまな「顔」をもったスクールです。本校の教育は、これらのリソースを効果的に組み合わせ、世界で生き、世界に貢献できる次世代のリーダーを育てています。

創立12年目の本年度も、「教育活動に社会とのかかわりを持たせるなど社会に開かれた教育課程を実現すること」と「いじめや体罰などのない安全・安心な学校を維持すること」を重点取組目標に、果敢にさまざまなことにチャレンジしてまいります。



東京学芸大学附属国際中等教育学校 校長 萩野 勉

## 国際バカロレア機構(IBO)が提供する国際的な教育プログラムを实践

世界の複雑さを理解し、そのことに対処できる力、そして未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けた生徒の育成を目的とした教育プログラム、国際バカロレアを導入・実践しています。

2010年に認定された中等教育プログラム(MYP)に加え、2016年度から日本語と英語によるディプロマプログラム(DP)を実施しています。日本国内の国公立学校初である6年一貫のIB認定校として、より質の高い教育の提供に努めています。



## 現代社会の課題解決を目指す探究型の理数教育を展開

2014年度よりスーパーサイエンスハイスクール(SSH)として、国際バカロレアの教育理念に基づいた、課題発見力、問題解決力、協調性、論理的思考力、多面的考察力、発信力等を兼ね備えた、将来国際社会で活躍できる科学技術人材の輩出を目指した理数探究教育プログラムの開発、実践を行っています。

高学年に限らず、6年間の体系だった理数探究活動や国内外のSSH校やIB校、さらに外部の専門研究機関との連携を通して、先進的な理数教育の実施と国際社会で必要とされる資質・能力の育成に取り組んでいます。

## 国際社会で活躍できるグローバル・リーダーを育成

2015年度よりスーパーグローバルハイスクール(SGH)として、社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、国際社会で活躍できるグローバル・リーダーの育成に向けた活動に取り組んでいます。

本校では、「リスク」「葛藤と軋轢」「教育」をテーマに、多文化共生社会の実現に向け、現代社会および未来につながる課題解決に生徒が自発的、主体的に取り組んでいます。他者との関わりにおいて必要なコンピテンシーとして、「組織力」「対話力」「実行力」を挙げ、それらの力を活かしたアクションを実際に起こせる生徒の育成を目指します。





# ISSでの学び



## 育てたい生徒像

ISSでは様々な教育活動を通じて以下の4つの資質を持った生徒を育てます。

### 現代的な課題を読み解く力を持った生徒

#### 探究を重視したホリスティックな学習

生徒が自ら「問い」を立て、その答えを模索していく過程を大切にしています。そのため、多くの授業では前期課程から、仮説を立て、仲間との議論や討論を通じてその検証を行い、導き出した答えをレポート等にまとめる活動を繰り返します。また、教科の枠を超え、様々な事柄のつながりを見つけ出し、本質を見つめることのできる目を養います。こうした経験は、コミュニケーション能力や分析力、批判的思考力を養い、物事について多角的に思考する姿勢を育てます。

「社会」という広大なフィールドには、既存の知識だけでは対応しきれない問題が数多く存在します。将来、そのような場に置かれても、自らの力で何が大切なのかを見極め、探究できる人材の育成に努めています。

### 対話を通じて人との関係を作り出す力を持った生徒

#### コミュニケーションの重視

グループワークやディスカッションなどのコミュニケーション活動を多く取り入れ、他者との対話を通じて学びを広げる機会を充実させています。人とのつながりの中で物事を解決していくという経験は、リーダーとして集団を牽引していく力はもちろん、フォロワーとして能動的にリーダーを支える力、そしてときには困っている仲間をケアする心を育てます。

さらに、あらゆる場面で要求されるプレゼンテーションやディスカッション、ディベートやインタビューなどの計画、準備、実践、振り返りを繰り返す中で、前もって多角的にリサーチすることの重要性や、内容を深く効果的に伝える工夫、グループ内で効率的に作業を進めるスケジュール管理、そして相手に応じた情報提示の方法等、必要なスキルを実践の中で学んでいきます。

### 知識とイメージを自分で再構築する力を持った生徒

#### 主体的な学びから実践へ

学校生活のあらゆる場面において、主体となって行動するのは常に生徒です。教員は、生徒の発見や疑問を大切に、生徒自身が知識やアイデアをつなげて新たな学びへと展開できるよう支援します。

またISSでは、スポーツフェスティバルやスクールフェスティバルはもちろん、校内の様々なイベントやワークキャンプにおけるプログラムの企画・交渉・準備・運営の多くを生徒自ら行います。その過程は決して一筋縄ではいくものではありませんが、あらゆる知識を統合し、多様な仲間と幾度も議論を繰り返しながら作り上げ、実施できたときの喜びは何物にも代えがたいものです。国際社会に飛び立ち、主体的に社会に貢献できるような人材育成を目指し、あらゆる場面での挑戦を応援します。

### 異文化への寛容性・耐性を持った生徒

#### 多様な環境・多様な経験

ISSは全校生徒約720名、各ホームルームは30名程度の学校です。多様な文化で生活してきた生徒たちが集まるホームルームには、少人数ならではの活気と安心感があります。毎年2回海外から、各学年に編入学生を受け入れるため、生徒は新しい出会いに前向きで、どのような生徒も寛容に受け入れようとする雰囲気があります。

またISSでは、積極的に校外でのボランティア活動や勉強会、コンテストやインターンシップなどへ参加することを奨励しています。授業の一環として、外部の専門家にインタビューを実施したり、フィールドワークへ出かけたりすることもあります。学校の外へ飛び出した生徒たちは、そこでの新しい出会いを通じて多くを学び、自らの視野を広げていきます。そしてひとりひとりの生徒の豊かな経験が、再び教室に持ち込まれ、他の生徒の世界をも何重にも広げてくれるのです。

## 現行の教育課程

	前期課程			後期課程								
	1年	2年	3年	4年	5年一般	5年DP	6年一般	6年DP				
1	国語	国語	国語	国語総合	現代文B	日本語A: 文学	体育	日本語A: 文学				
2					古典B							
3												
4	社会	社会	社会	地理A or IM地理A	世界史A or IM世界史A	歴史	歴史					
5					現代社会			日本史A				
6												
7	数学	数学	数学	数学I	数学II	Mathematics SL	Mathematics SL					
8								数学A or IM数学A	数学B or IM数学B or 芸術			
9										生物基礎		
10	理科	理科	理科	地学基礎 or IM科学と人間生活	物理基礎	化学	化学					
11								化学基礎	Visual Arts			
12										Visual Arts		
13	音楽	音楽	音楽	体育	体育	English A: Language and literature or English B	Visual Arts					
14								美術	美術			
15										美術		
16	美術	美術	美術	芸術	家庭基礎	English A: Language and literature or English B	Visual Arts					
17								保健体育	保健体育			
18										保健		
19	技術・家庭	技術・家庭	技術・家庭	芸術	家庭基礎	English A: Language and literature or English B	Visual Arts					
20								C英語I	C英語II			
21										英語表現I	体育	
22	英語	英語	英語	C英語I	C英語II	English A: Language and literature or English B	Visual Arts					
23								情報の科学	英語表現I			
24										英語表現I	保健	
25	LE1	LE2	LE3	情報の科学	英語表現I	English A: Language and literature or English B	Visual Arts					
26								国際1情報	国際2			
27										国際3	国際4PP	
28	国際教養	国際教養	国際教養	国際教養	国際教養	国際教養	国際教養					
29								国際1理数探究	国際2	国際3IM	国際4PP	国際5
30								国際1	国際2	国際3IM	国際4PP	国際5
31	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳	道徳					
32	HR	HR	HR	HR	HR	HR	HR					

- (1) 国際教養とは、学習指導要領で定められている「総合的な学習の時間」、「学級活動」および前期課程（中学校段階）の「道徳」を再編・整理したもので、学校での授業と、校外学習（ワークキャンプやフィールドワーク）を通して学習を進める。
- (2) 3年の国際3IM（イマージョン）は、社会、数学、理科、美術等の内容の授業を年間を通して英語で行う。
- (3) 4年の国際4PPは、パーソナル・プロジェクト。
- (4) 4年の選択科目は、GI（Global Issues）、外国語（フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語）。
- (5) 5年の選択科目は、GI（Global Issues）、外国語（フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語）、インフォマティクス、生物イマージョン。
- (6) 4～6年のIM（イマージョン）は、その科目の授業を年間を通して英語で行う。
- (7) 6年一般プログラムの（ ）は、それぞれの科目の単位数。



多様な教員集団

ISSには生徒たちの学びを支える多様な教員がいます。教育学専門の教員だけでなく、各分野での博士号・修士号を取得している多彩な人材が集まっています。中には、南極越冬隊、JICA青年海外協力隊、ジャーナリスト…などのバックグラウンドを持つ者、国内外のあらゆるボランティア活動に継続的に参加している者などもおり、生徒たちと共有するたくさんの経験や物語を持っている教員で溢れています。

また、本校では、そのような教員と生徒の距離はとても近く、授業内外で楽しい会話が常に繰り返されています。ときには生徒と教員が真剣に議論をぶつけ合う姿もみられます。「先生」としてだけでなく、「人生の先輩」として関係を築ける環境がISSにはあります。



# 特色ある教育活動

## 国際教養

『国際教養』とは、国際社会の中で共生・共存できる力を育成するために設定された本校独自の学習領域です。国際バカロレアの中等教育プログラム(MYP)の提唱する『グローバルスタンダードの教育』の考えのもとに、6年間を通じて国際理解・人間理解・理数探究の3つの柱で構成されているカリキュラムを学びます。各学年で設定されている『国際教養』の時間には、各教科の枠を超えた現代的課題を多様な観点から学び、プレゼンテーションやディスカッション運営などのスキルを磨きます。外部の方をお招きして講演会を開催したり、生徒自ら主体的なワークショップを企画、運営したりしながら、視野を広げ、実践力を身につけることができます。



国際教養の時間では、個人やグループで問題を設定し、その提言をまとめるという活動をよく行います。グループメンバーとのディスカッションの中で、自分では思いもよらなかった考えやより良いと思える考えに辿り着けたときの喜び、興奮は一入です。また、一年間を通して個人の研究を進める活動では、自分次第でいろんな観点や考え方に研究を広げることができると実感しました。

## ワークキャンプ(WC)

1年生・3年生・5年生には、宿泊行事(WC)があります。1年生は人間関係作りや人間と自然の共存などをテーマに富士五湖方面へ向かいます。3年生は、沖縄を舞台に各自が研究課題を設定し、事前のリサーチや現地の方々とのインタビュー、民泊での出会いを通して一年間にわたって探究的な学びを深めます。5年生は、カナダ・バンクーバーを訪問し、現地の生徒たちと現代的課題についてディスカッションを行います。



3年生の沖縄WCでは事前に自分で訪問したい場所に手紙を出し、それらを各自が1日かけてまわって研究を深めました。沖縄戦をテーマにしていた私は、事前に問い合わせをしていた何人かの方にお会いしてお話を聞くことができ、東京には決して知ることがなかった沖縄戦の姿を知りました。私は沖縄を訪れる前、戦争が本当に行われていた事実が上手く呑み込んでいませんでした。実際に訪れてみると、体験者の方の話やいまだに残る戦争の傷跡などから戦争の恐ろしさを深く実感することができました。

ホームステイの中日は現地校へ行き、バンクーバーの高校生と一緒にディスカッションや、日本について紹介するプレゼンテーションを英語で行いました。現地の生徒との対話を通じ、互いに文化や価値観の違いについて学ぶことができました。夏休み明けからプレゼンテーションなどの練習を重ねた私たちにとって、英語力を試す良い機会となりました。

## フィールドワーク(FW)



各教科では、実際に目で見て肌で体験することを目的に、教室を離れてFWに出掛けます。アートFWでは美術館にてギャラリートークを体験し、国語FWでは歌舞伎や狂言などの伝統芸能を鑑賞します。また、サイエンスFWでは、前期課程では磯や動物園で生態観察を行い、後期課程では医療現場やJAXA、各種研究所など、専門分野の第一線で活躍する方々から直接お話を伺います。

最も印象的だったのは手術の見学で見た、心臓が実際に動く様子と、働く医師の姿でした。心臓が開かれている患者の胸の中でドクドクとリズム良く、力強く動く様子はまさに生命の神秘で、自分の体の中でも絶え間なく同じことが繰り返されているのかと考え、生命の営みの様子をこんなにわかりやすく目にする機会には他にないと感じ、感動せずにはいられませんでした。医師にならない限り手術をこんなに近くで見ることにはないので、人生においてとても貴重な経験ができたと思います。

最も印象的だったのは手術の見学で見た、心臓が実際に動く様子と、働く医師の姿でした。心臓が開かれている患者の胸の中でドクドクとリズム良く、力強く動く様子はまさに生命の神秘で、自分の体の中でも絶え間なく同じことが繰り返されているのかと考え、生命の営みの様子をこんなにわかりやすく目にする機会には他にないと感じ、感動せずにはいられませんでした。医師にならない限り手術をこんなに近くで見ることにはないので、人生においてとても貴重な経験ができたと思います。



## 理数探究

国際教養の一つの柱でもある理数探究では、身の周りや世の中の様々な事象を科学的視点からとらえ、社会に活用していく方法について考えます。例えば1年生では、週に1時間、『理数探究』という時間が設定され、複数のテーマに分かれて探究型の理数学習を行っています。テーマ例は、『感性を数値化してみる世界』『身のまわりの事象を数学の眼でとらえて探究しよう』『光と映像の科学』『キッチン科学』『東日本大震災からまなぶ地学』『音楽で人間らしさを科学する』などです。



理数探究は理科と数学を探究する課題で、色々なテーマがあります。私は浮力について学び、後半は浮力に回転を加えたブーメランの原理について、形のパターンを変えながら実験をし、なぜブーメランが返ってくるのかという答えを出すことにしました。この理数探究を通して、科学的知識を得て、その内容から考え方を発展させることができました。

## 課題研究

生徒たちは、自ら研究テーマを設定し、様々な角度から探究をした上で、結論を導き出すことの重要性を低学年から学びます。1、2年生では各教科でのレポート課題などを通じて課題研究の素地を養います。3年生ではWCを通して自己の内にある問いを顕在化させ、4年生では、MYPの最終学年として、PP(Personal Project・個人研究)を仕上げます。また、SSH、SGHに認定されたことで、更に多くの生徒が主体的に、多様な分野の研



究を行います。生徒は、本校教員はもちろん、専門家や学外のアドバイザーからも支援を受けながら研究を行っています。研究結果を校内外で発表する機会を通して、お互いの研究を評価し合ったり、外部の有識者に助言していただいたりすることも学びの原動力となります。

1年間を通して私は「現在の日本に必要な紫外線対策とは？」という問いの元、研究を行いました。オーストラリアに滞在していた経験から、近年、日本の紫外線量、そして皮膚患者数が増加しているにも関わらず、日本では国を挙げた対策が足りないのではないかという仮説を立てました。そして、文献研究、独自のアンケート調査や実験を行い、自分では対策をすることの難しい幼い子どもたちの紫外線対策として、公園や教育施設の国を挙げた対策を考え、教育機関、行政機関、専門家に提案し、その方々から評価を頂けたことは自信にもつながりました。

## Learning in English (LE)・英語以外の言語

前期課程では、英語の授業の他に週に2時間、LEの時間が設定されています。LEでは外国人講師の先生と英語「を」学ぶのではなく英語「で」様々な地球的課題について学びます。また4、5年生では、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語などの英語以外の言語を学ぶこともできます。多言語の学習を通じて、異文化への理解・関心はもちろん、自分自身や自文化への理解も深めていくことは、IBによって推奨されています。



ロサンゼルスに住んでいた頃、周りには韓国人の友達がたくさんいました。韓国の文化や言葉に触れることが多かった私は、この学校で韓国語を学びたいと思いました。「私の感じる韓国人」をテーマに書いたエッセイコンテストでは優秀賞を取り、韓国往復券を手にし、人生初の韓国へ行くことができました。また、「話してみよう韓国語スキット大会」では、韓国語で会話をしながら演技をしました。韓国語の発音、特にパッチムと濃音はとて難しく大変でしたが、練習に練習を重ねた結果、全国大会で優勝することができました。

## Japanese as a Second Language (JSL)



JSLは、日本語を母語としない生徒を対象としています。海外での経験が長く、日本語を使う上で不安がある生徒、日本語での授業を受けたことがない生徒は、他の生徒と同じクラスで授業を受けながら、放課後の時間を利用し、授業の理解を深めるための日本語学習サポートを受けることができます。

私は韓国人で日本語がほかの友達と比べ出来ていません。そのため、JSLに行っています。JSLでは先生に直接知らないことを聞くこともできるし、自分が弱い部分でいるのを助けてくれます。日本語が苦手な人が来て先生たちから出来ない部分を教えてもらいます。私は1年生のときからここに行くことを大事にしています。1年間、漢字などの日本語がよりよくなったし、授業の内容なども少しずつ理解できるようになっていきました。私はJSLがあっけ良かったと思います。



# ISSでの生活



4月 April	5月 May	6月 June	7月 July	8月 August	9月 September
始業式 入学式 新入生歓迎会 保護者会 学習状況テスト(1年) 校内基礎学力テスト(3年) TOEIC/TOEIC Bridge(3年)	健康診断 開校記念日 生徒総会 富士ワークキャンプ(1年)	スポーツフェスティバル	編入学検査 定期試験 大学フィールドワーク(4年) 終業式 保護者会 第一回学校説明会	英語集中講座(1~2年) ジュニアインターンシップ(2年)	始業式 スクールフェスティバル 教育実習 生徒会選挙
10月 October	11月 November	12月 December	1月 January	2月 February	3月 March
生徒総会 第二回学校説明会	アートフィールドワーク(1年) 沖縄ワークキャンプ(3年) カナダワークキャンプ(5年) 日本文化探訪(2・4年) マラソン大会(1・2年) サイエンスフィールドワーク(1・4年)	定期試験 校内大学模擬授業体験会(4・5年) GTEC(3~4年) キャリアエデュケーションワークショップ(1・2年) 終業式 保護者会	始業式 校内学力テスト(3年) シーズンスポーツ(4年)	入学・編入学検査 送別会(4・5・6年) ISSチャレンジ研究成果発表会	卒業式 定期試験 修了式 保護者会 DP美術フィールドワーク

Pick Up!



## Sports Festival

One for All. All for One. 学年を超えて助け合い・笑い・喜び、時には皆で涙する。それが1年で最初の大きなイベント：スポーツフェスティバルです。あらゆる壁がなくなるこの日、ISSは固い絆で結ばれます。そして、この日の思い出は必ず学校生活の最高の1ページに刻まれます。今まで受け継がれてきた、このSpF特有の空間は、私たちISS生だからこそ作ることができるのです。



## School Festival

スクールフェスティバルは1年間の中でも非常に大きな行事です。生徒は学年・クラス・部活、また有志などのグループに分かれて、生徒が自ら企画し、沢山の方に楽しんでいただけるよう当日に向けて準備を行います。生徒自身で行わなければならない分、苦労することも多くありますが、その苦労の分だけ達成した時の達成感は大きいです。全校が一つとなって、スクールフェスティバルを盛り上げていきます。

## 部活動

ISSでは、中等教育学校の特質を活かし、多くの部活動で前期課程と後期課程と一緒に活動しています。学年の異なる生徒と活動することを通じて、リーダーシップや協調性を養い、共生の姿勢を身につけることを目的とします。

- 前期課程 硬式テニス・ソフトテニス・サッカー・野球・陸上競技・ダンス・バスケットボール・バドミントン・バレーボール・水泳・卓球・合唱・音楽・管弦楽・美術・ボランティア・棋道・科学
- 後期課程 硬式テニス・サッカー・野球・陸上競技・ダンス・バスケットボール・バドミントン・バレーボール・水泳・音楽・管弦楽・美術・ボランティア・棋道・科学・演劇・山岳研究・茶道・鉄道研究



私はISSの部活動を通して、様々なことを経験することができています。私の所属しているバスケットボール部は、前期・後期合同で練習をしています。限られた環境の中で、どのように効率よく練習していくのか、今の環境をどう活かしていくのかを考えながら日々練習に励んでいます。バスケット部では、技術だけでなく、自分たちがどう頑張っていくのかも学ぶことができ、自分にとってかけがえのない存在です。

音楽部では、バンド活動を通してのコミュニケーションが大切だと感じています。演奏中は目や体で仲間と心を通わせ、演奏後には自分たちの反省点を出しあったり、より良い音楽を作るための意見交換をしたりしています。更に演奏だけではなく、自分達がライブを作ると意識を常に持ち、一人一人が主体となって活動することを目的としています。この部活動で培った主体性を他の学校生活にも活かしています。

## 服装

式典・校外行事など正装を求められる日は、制服を着用します。本校の制服は、男女共に紺色のブレザーと学校指定のエンブレム、ネクタイです。それ以外は各自が判断して良いことになっています。指定日以外は制服の着用は義務付けられていませんので、各自が安全性・マナーに配慮し、私服で登校します。もちろん、毎日制服を着用しても構いません。



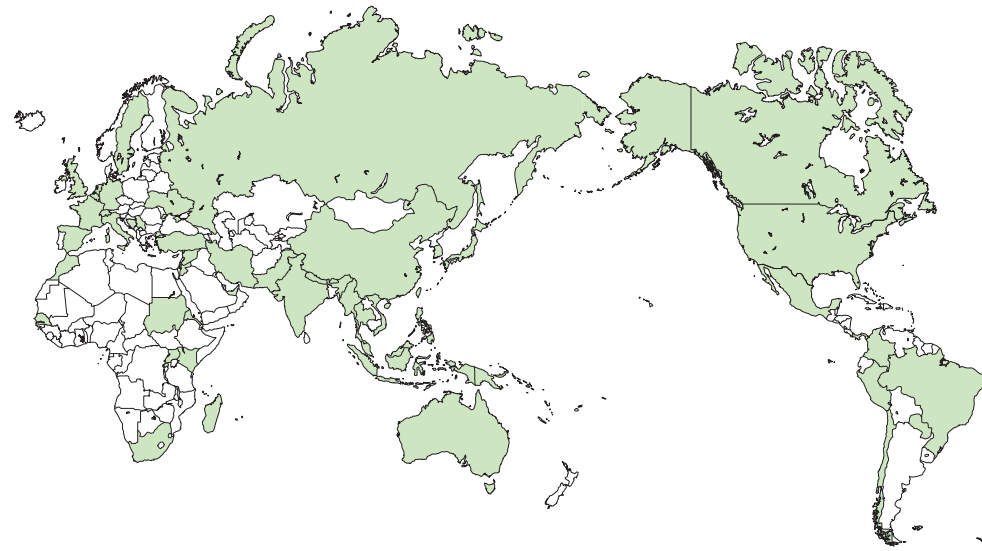


# ISSから全国へ、そして世界へ

## 多様な生徒層

ISSは、全校生徒約720名の学校です。各クラス30名程度のホームルームには、様々なバックグラウンドを持った生徒が集まっています。人生の大半を海外で生活してきた生徒、外国籍の生徒、また、国内の小学校出身で一度も海外に出たことのない生徒…など、生徒ひとりひとりが抱える物語は実に多様です。

こうした多様な生徒が集まっているためか、ISSには型にはめて他者を判断するのではなく、どんな人物でも寛容に受け入れようとする雰囲気があります。教室に飛び交う多言語に始めは戸惑う生徒も多いですが、お互いの経験や価値観を共有しながら関係を築いていきます。



ISSには毎年約50~60の国と地域からの帰国生が集まっています。全校生徒に占める帰国生の割合は約4割です。

## 海外留学

ISSに入学して、更に「世界を知りたい!」と感じ、在学中に留学を希望する生徒たちがいます。後期課程において、成績・出席状況などの一定の条件を満たせば、帰国後に最大31単位が認められる制度があります。海外の高校に1年間の長期留学から数週間の短期留学までそれぞれが目的をもって挑戦しています。さらに、本校では海外からの留学生の受け入れも行っています。

	2015年	2016年	2017年
4年	13	14	8
5年	1	0	0
6年	0	0	0

1年間の海外高校留学をした生徒数(1学年およそ120名)



私は2016年の夏からフランスのブルターニュに一年間留学しました。海外で生活をしたことがなかった私は異文化との交流をしたいという意思が強く、留学を決断しました。とりわけ食文化や国民性が私にとってとても興味深かったフランスに行くことを決めました。留学を決める前までは英語の学習しかしてこなかったため、非英語圏に行くという葛藤が少なからずありました。しかし私にとってフランスの文化は未知数で、それゆえ多くの価値観を吸収できると思い決断しました。現地での生活を送る中で、はじめは言葉の壁が存在しました。しかしホストファミリーや学校の友達がフランス文化をなんとか私に伝えようと必死に説明してくれました。彼らは全員が自国を愛しているので、フランスのことを

教えてもらうたびにフランスをどんどん好きになっていきました。学校では授業は多い日で一日9コマあり、平日のほとんどを友達と過ごしました。水曜日は授業が通常より早く終わるため、毎週地元のサッカークラブの練習に行かせてもらいました。週末には試合があり、仲間と一喜一憂をともにした経験は貴重でした。それまでほとんど知らなかった人や文化を経験することは決して楽しいことばかりではありませんでしたが、この留学生活のすべての経験が新鮮で一気に相互理解の幅が広がったと感じました。

それは、この学校に入ってから、SA活動に積極的に参加するようになりました。最初のうちは、興味を持ってたくさん参加していただけでした。しかし参加していくうちに、参加費はどこに送られているのか、イベントの目的は何であるのか、また自分の活動は何のためであるのかと考えるようになっていきました。そしてなぜ、自分がそこまでSA活動に対して他の人とは違うであろう思い入れがあるのか考えると、思い当たるこ



## Service and Action 社会貢献活動

Service and Actionとは、社会やコミュニティに自分がどう貢献するかを考え、行動に移すことを目的とした、MYPのカリキュラムの一領域です。ISSでは、積極的にService and Actionに取り組むことで、「自分に何ができるか?」ということに常に問い続ける姿勢を養っています。生徒は、地域・環境・難病などの様々な社会課題に関わるNPO、NGO、ボランティア団体のイベントにスタッフボランティアとして参加したり、自分たち自身でボランティア活動を企画したりすることで、自分たち自身も学びながら多くの活動を支えています。また、国内での活動に留まらず、海外ボランティアに参加し、多くを経験してきました。積極的に校外に飛び出すことで、未知の世界でのジェレンマを体感し、未来にチャレンジすることの重要性を感じ取ってくる生徒も少なくありません。



と考えるようになっていきました。そしてなぜ、自分がそこまでSA活動に対して他の人とは違うであろう思い入れがあるのか考えると、思い当たるこ

とがありました。それは、インドネシアという貧富の差が激しい国に住んでいた経験です。私の姉妹校は現地校で貧しい子供たちもたくさん通っていました。そして私たちの学校では、寄付金を集めたり、実際にいっしょに遊んだり姉妹校として支援をしていました。そうしていくうちに私は自然とそのような活動に慣れていったのだと思います。そして現地で自分のバザーを開催し、その売上金で日用品を購入し、寄付をするということができました。この経験をはじめとして、自分にできることがあるのであれば何か行動を起こしたいと思えるようになりました。そのときは、まだSA活動との直接的な関係を気づいていませんでしたが、このことが今の私の背景にあるのではないのでしょうか。この経験を胸に、これからもたくさんの活動に参加し、多くの人に笑顔を与えられるようにしていきたいです。

### 過去に生徒が参加したService & Actionの活動の一例



## 「声」を発信する

本校では、様々な授業や課外活動においてそれぞれの生徒が学んだことや感じたことを、新聞投稿や作文コンテストなどを通じて「声」として全国や世界へ発信することを奨励しています。年間数多くの新聞の投書欄に本校生徒の文章が掲載されています。

美術鑑賞の世界史という授業を受けた。フランス革命が起きるまでの重要な画像三枚を見て、それらの画像に写っている人や服のデザイン、色使いなどに注目して、そこから、その時代の背景を考察した。この授業を受けて、私は普段の生活の中でも美術鑑賞の視点が重要だと感じた。フランス革命の時代にはまだ写真技術がなく、画家がその場の景色を描いて記憶を保存した。しかし今、私たちは思い出を写真で保存する。その場で感じたことも見たことも、写真があると目で見ようとしなくなっている。そうすると、五感で感じることの大切さを失ってしまう。そんな生活を送ってしまっているのだと感じた。一つ一つの思い出を自分の目を通して保存したいと思う。

(東京新聞 掲載)

## 世界と出会う

毎年、多くの生徒が学校を飛び出し、日本各地や世界各国で開催されるイベントや大会に参加しています。各大会で成果を上げることはもちろんですが、それぞれの場での出会いは、生徒を一回りも二回りも成長させてくれます。

私たちはOne Young World (OYW) というサミットに参加するためにアイルランドに行った。OYWは世界の様々な問題を若い世代がどう解決できるのかということ、190か国以上の国から集まった1300人以上の若者が話し合う年に1回のサミットである。若者といっても高校生の参加者は珍しかったが、いざ話し合いの場になると容赦なく意見を求められ、私たちが周りに負けないように自分たちのアイデアを発信していった。結果として私たちは合計100人以上の人と話し、世界で起きている様々な問題に対する当事者の「生の声」を聞くことができた。例えば家族と引き離されても生きるために脱北した若い女性の体験談を聞いたり、パーキンソン病患者によるゴスペルのパフォーマンスを見たりと、たくさんの刺激的な経験をした。ただサミットの中で最も印象的だったのは、OYW参加者全員が国籍も宗教も性別も関係なく、自分たちの世界をよりよくしたいという共通の意志を持って交流していたことだ。サミットのとある場面では、元国連事務総長のコフィ・アナン氏が「世界をけん引するリーダーになるのに若すぎることはない」と発言していたように、若者の持つ底力を自らの目で確認できたとても充実したサミットだった。



# 進路・進学

国内・海外の大学をはじめ、多岐にわたる進路の選択を支えます。



卒業生 大学合格者数〔各種推薦入試・AO入試の結果を含む〕  
5回生（130名）、6回生（134名）

### ■国公立大

学校名	2018年度		2017年度		学校名	2018年度		2017年度		学校名	2018年度		2017年度	
	現役	既卒	現役	既卒		現役	既卒	現役	既卒		現役	既卒	現役	既卒
秋田大学			1		千葉大学		1	1		東京大学	4		5	
大阪府立大学			1		筑波大学	3		2		東京農工大学		1	1	
お茶の水女子大学				1	電気通信大学		1	1		東北大学		1		
京都大学				2	東京医科歯科大学					一橋大学				5
群馬大学				1	東京外国語大学			1		福島県立医科大学		1		
国際教養大学	1		1		東京学芸大学	2		5		北海道大学	1	1	1	
首都大学東京	3		1		東京芸術大学		1			横浜国立大学		1		
信州大学				1	東京工業大学	1		3		横浜国立大学			1	

### ■私立大

学校名	2018年度		2017年度		学校名	2018年度		2017年度		学校名	2018年度		2017年度	
	現役	既卒	現役	既卒		現役	既卒	現役	既卒		現役	既卒	現役	既卒
青山学院大学	4		11		白百合女子大学		4	2		東京理科大学	9	6	17	
麻布大学				1	成蹊大学		4	1		東都医療大学		1		
亜細亜大学	3				聖心女子大学			2		東洋大学				10
鷗見学園女子大学				2	西武文理大学		1			獨協大学		1		
岩手医科大学				1	聖路加国際大学			1		二松学舎大学			1	
桜美林大学	1				専修大学	3		3		日本歯科大学				1
学習院大学	4		1		大東文化大学			1		日本女子大学		3		2
神奈川大学	1				多摩美術大学	4				日本赤十字看護大学		1		
関西学院大学				2	千葉工業大学			1		日本体育大学		3		2
北里大学	1	1	5		中央大学			1		日本大学	11			9
共立女子大学	1		2		中央大学	8	2	12		文京学院大学		1		2
杏林大学	1				津田塾大学			1	2	文教大学		1		
近畿大学	1	2			帝京大学		4	2		法政大学	14	1	14	
慶應義塾大学	27	1	37		帝京科学大学			2		星薬科大学				3
国学院大学				3	帝京平成大学			2		武蔵大学		1		4
国際基督教大学	7	1	2		東海大学			1		武蔵野大学		1		4
駒澤大学	2				東京医療保健大学	2				武蔵野美術大学		4		
実践女子大学	1				東京家政大学			2		明治学院大学		2		2
芝浦工業大学	2	1	3		東京経済大学			1		明治大学	6	3	20	
順天堂大学	2		2		東京工科大学		1	1		明治薬科大学				1
城西大学				1	東京国際大学			2		明星大学				2
上智大学	22		27		東京慈恵会医科大学			1		立教女子学院短期大学				1
尚美学園大学				1	東京女子大学		1	2		立教大学	11	1	17	
昭和女子大学				2	東京電機大学			1		立命館大学		1		1
昭和薬科大学				1	東京都市大学		4	1		早稲田大学	21	3	35	
昭和大学				1	東京農業大学			2		東京交通短期大学				1
女子美術大学	1				東京薬科大学		1	1						

### ■海外大（1回生～6回生：過去6年分）

学校名	合格者	学校名	合格者	学校名	合格者
Amherst College	1	Muhlenberg College	1	University of Alberta	1
Beloit College	3	New York University	1	University of British Columbia	1
California Baptist University	1	Northwestern University	1	University of Colorado Boulder	1
California Jazz Conservatory	1	Ohio Wesleyan	1	University of Maryland	1
Colby College	1	Pomona College	2	University of Richmond	1
College of Wooster	1	Queen's University	1	University of Rochester	1
Denison University	1	Rensselaer Polytechnic Institute	1	University of Sheffield International College	1
DePauw University	1	Sewanee: The University of the South	1	University of Toronto	1
Dublin City University	1	St. Lawrence University	1	University of Victoria	1
Furman University	1	Stanford University	1	University of Western Ontario	1
Griffith University	1	Swarthmore College	1	Washington & Lee University	1
Grinnell College	3	Syracuse University	1	Wesleyan University	1
Harvard University	2	Temple University Academic English Program	1	Whitman College	1
Ithaca College	1	The University of Melbourne	1	Williams College	1
Juniata College	1	The University of Queensland	3	Yale University	2
Knox College	2	The University of Western Australia	1	Yale-Nus College	1
Leeds Arts University	1	UCLA	1	延世大学	1
Mount Holyoke College	1	University College London	1	梨花女子大学	1

■大専科（2018年度現役） 国立看護大専科 1 防衛大専科 2  
■専門専科（2018年度現役） 帝京高等看護学院 1 都立広尾看護専門専科 1

本校を卒業する生徒のほとんどは日本国内や海外の大学へ進学します。本校の卒業生（1回生～5回生）の現役合格率は約9割と高く、また、その進学先も医、薬、理、工、情報・通信といった理系分野から法、政治、経済、国際、言語、文学、社会、歴史、教育といった文系分野、更には音楽、美術、演劇などの芸術の分野まで多岐にわたっています。

本校では、生徒の多様な進路選択を可能にするため、キャリア教育と進学指導の両側面から様々な指導を行っています。前期課程では、多様な職種の方を学校にお招きしてお話を伺う場や、実際に職場体験を行う機会を設け、「働く」ことについて理解を深めます。後期課程になると、キャリア教育に加え、卒業生の講演会や大学の授業に実際に参加するフィールドワーク、多様な大学の先生方に本校で授業をして頂く機会なども設けています。

もちろん、個人面談の実施、外国人講師等による海外大学へ向けての進学指導、模擬試験の実施や案内、国内・海外大学入試手続きに関する説明会、各教科による演習指導や放課後の補習など、日常的なフォローも行っています。生徒一人ひとりが納得のいく進路へと進めるよう、6年間継続した支援を行います。

## 卒業生のことば

ISSから世界へと羽ばたこうとしている卒業生からのメッセージ

ISS生活のスタートは廊下で頭上を横切る英語への戸惑いでした。国内の小学校から進学してきた私にとって、帰国生の友人は雲の上のような存在でした。そんな彼らに抱いた漠然とした憧れは、私の英語学習への高い意欲に変わっていきました。英語の授業では多くのImpromptu Speechやプレゼンテーションを通して習った英語を自分の英語としてアウトプットしていくことも出来ました。LEの授業ではネイティブの先生方との会話で、スピーキングとリスニングを鍛えることが出来ました。英語で日記を書き始めた頃は、持って行く度に先生方は快く添削をしてコメントをしてくださいました。

最初はスタンダードクラス（現在のコアクラス）にいた私が4年生になるころにはアドバンスクラスに行くことが出来たのは、先生方がこのように手厚く私の学習をサポートしてくださったからだと思っています。この秋からアメリカの大学で4年間、リベラルアーツ教育を受けます。将来的にはヨーロッパでMBAを取得しようと考えていますが、学部生の間はビジネスに固執しすぎず、経済・経営・政治・心理学・アートなど様々な分野において知識を深め、後々その知識を自由に応用できるスキルを身につけたいと思っています。



金 紗羅（3回生）  
Wesleyan University

ISSでの6年間は、勉強よりもサッカーに費やした時間が多かったかもしれない。そんな僕をISSは自由に泳がせてくれた。それは本校が部活動を推進しているからではなく、生徒に責任をもたせ、一人ひとりが自ら考え、行動できる環境を提供してくれるからだ。ISSでの学習を通して学んだことは、自分の意思に基づいて行動するからこそ、結果に価値があるということだ。高1の新人戦でPKをはずし、敗退したことや目標であった都大会出場の手前で2度も敗れたことは、練習メニューを作り、練習試合を組んだ自分たちにしか責任がない。だから、余計に悔しかった。それと

は対照的にSSHの研究が実り、大阪での発表で賞をもらったときの喜びと達成感は自ら決めた「サッカーキックの解析」というテーマ、自ら進めた研究であっただけに大きかった。さらに研究成果はAC入試という形で大学進学に結び付き、研究全体を通して自分の将来観がはっきりした。ISSを語るうえで忘れてはいけないのは先生の教育に対する熱意。少ない休日を部のために使ってくれる顧問や夜遅くまで研究を手伝ってくれた先生には感謝の気持ちでいっぱい。これから6年間をISSで時間を過ごせるとすると、新生活を待ち構える新入生たちが羨ましい。入学目指して、がんばれ！



スコット アトム（4回生）  
筑波大学 情報学群情報科学類

私にとってISSは、人とのつながりの大切さを教えてくれた場所であり、将来の目標が見つかった場所でもあります。私は5年次のスクールフェスティバルを実行委員長として参加しました。初めは何からすべきなのか、どう進めていけば良いのか全く分からず、先生方や今まで委員会でお世話になっていた先輩方に支えられながらスタートを切りました。それから困難にぶつかっても委員会の仲間や同級生、周りにいる人たちが応援してくれて、一緒に乗り越え、成功することができました。私の中でスクール

フェスティバルの成功はもちろん、仲間と一緒にやり切ったということが一生の思い出となりました。また、ISSで過ごしたことにより、将来は私たちを支え、応援してくださった先生方のような教師になりたいという夢も見つかりました。ISSはやりたかったことをやろうと思えばできる場所です。そして本気で乗り越えようとするれば応援してくれる先生や支えてくれる仲間がたくさんいます。そんなISSで6年間を過ごせば自分自身のためになる何かを得られることは間違いありません。



竹中 友理（4回生）  
東京学芸大学 教育学部

ISSでの学校生活は、自由に溢れたものだと思います。学校行事に打ち込むのも、研究に没頭するのも自由で、ISSには一人一人の決断を応援してくれる環境が整っています。ISSがSSH、SGHの指定校であることはその例です。私自身、5年次にはSSHをきっかけに数学の研究に、6年次にはスポーツフェスティバルの応援団長として学校行事に没頭し、その自由を謳歌しました。特に5年次の研究では、高校数学の分野である三角関数、そして軌跡に関する深い考察をし、その結果を論文とまとめ他SSH校の生徒や、有識者の方々に発表する機会があり、大いに刺激を受けることができました。これが可能になったのは、自由に学び、

考える間に培った洞察力、好奇心のおかげと言っても過言ではありません。一般的には、中学や高校に大学受験で成功するためのカリキュラムを求める人も多く、自由と受験は相容れないように感じるかもしれません。しかし、ISSには何にでも成功するための環境が整っていると断言します。ISSで培われた洞察力は大変研ぎ澄まされています。もちろん、ISSで得られる経験も素晴らしいものです。志高く、また、多くの機会を通じて成長したいと思っている皆さんを後輩と呼べる日が来ることを楽しみにしています。



長久 海（5回生）  
東京医科大学 医学部

私は中学3年生の春に海外から戻ってきて、ISSに編入し、卒業までの4年間を過ごしました。この学校での生活を振り返って、本当に裾野が広い、あたたかい環境であったことをひしひしと感じます。ISSにはさまざまなバックグラウンドや感受性を持った人たちが集まってきます。生徒はもちろん、先生方もおもしろい人たちがばかりです。編入当初私は、新しい環境が不安で消極的なことばかり考えていました。しかし入学してみると、周りの人々の多様性に驚くと共に、自分自身のありのままを主張してもそれを受け入れてくれる環境に安心しました。自分で考え、主張して、行動する。ISSではこれを行うための場が用意されています。

私は高3の夏までサッカー部に所属していました。そこではどのようなチームを作り、どのように取り組むかはすべて自分たち次第でした。勉強に関しては、知識を得るだけでなく、それを踏まえてさらに深く考え、それを伝えたり、それに基づいて行動するための手段を学びます。主体的に動いたからこそ得られる達成感や悔しさや自信を、私はISSで知ることができました。ISSでの4年間は私にとってとても内容が濃く、色々なことを感じた時間でした。ISSはさまざまな価値観を受け入れて、それらを共有させてくれる場所です。ぜひISSに入学し、めいっぱい自分を発信していきましょう。



小林 素（6回生）  
東北大学 工学部

思い返せば、ISSでの6年間は「想定外」の連続でした。入学当初、英語学習歴も海外渡航歴もなかった自分が、後期課程で1年間のスイス交換留学を経験し、複数の外国語を学習するとは想像もありませんでした。また、前期課程では理系科目に興味を持ちSSH研究に取り組んだ一方、後期課程では新たに言語や法に興味を持ち、最終的に法学部への進学を決めました。こうした6年間での成長は全て、ISSで与えられた様々な機会がきっかけでした。もちろん帰国生の存在や、学校から参加したボランティアでの国際交流は、外国語学習やさらに様々な活動参加への刺激となりました。しかしISSは「国際」の一語には秘められない学校です。前期後期で延べ3年間全力を投じた

生徒会活動では、生徒や先生方と何度も話し合い、ISSをより良くしたい一心で試行錯誤を重ねたことで、政治や法に興味を持つようになりました。SGHフィリピン研修やスイス留学での経験をもとに行なった言語に関するSGHでの研究では、将来の方向性を決定し、推薦入学の機会を得ることができました。普段の学習でも、様々な事象を多角的に考察する力や、それを言語情報やその他の手段を通して表現する力を生徒個人が判断に委ねられます。早い時期に自らの目標を設定し、与えられた機会を捉え選択しながら、自分で決めたことに全力で挑戦できれば、ISSでの6年間は実り多いものになるはずです。



萬屋 杏菜（6回生）  
東京大学 法学部



# 入学案内

## 2019年度 入学選抜検査について

入試の種類	第一学年 4月入学選抜検査		編入学選抜検査	
	A方式	B方式	4月編入学	9月編入学
募集人員	約30名	約30名	第2～6学年 各学年数名	第1～5学年 各学年数名
審査内容	書類審査 外国語作文* 基礎日本語作文 面接（集団面接）	書類審査 適性検査Ⅰ 適性検査Ⅱ 面接（集団面接）	書類審査 外国語作文* 基礎日本語作文 面接（集団面接）	
応募資格	①該当学年相当の年齢である者 ②次の a か b のいずれか a 国内小学校を卒業する見込みの者 b 日本の義務教育6力年終了相当の教育を受けた者		①該当学年相当の年齢である者（第1～3学年） 該当学年相当以上の年齢である者（第4～6学年）** ②帰国後または来日後1年以内（後期課程では4年4月を除いて半年以内）の者 ③海外にある教育機関に在籍していた期間が連続して1年間と1日以上のある者	
募集要項 公示日	2018年9月15日（土）			2019年4月下旬予定
願書受付	2019年1月上旬予定			2019年6月上旬予定
選抜試験	2019年2月3日（日） 予定			2019年6月下旬～ 7月上旬予定
合格発表	2019年2月5日（火） 予定			2019年7月上旬予定

\*外国語作文で使用できる言語は、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語（簡体・繁体）、韓国・朝鮮語のいずれかです。  
\*\*後期課程（第4～6学年）への応募資格の詳細については、募集要項をご参照ください。

## 入学選抜や入学に関するQ&A

### Q1. 「帰国生枠」はありますか？

#### A1. 入学と編入学によって条件が違います。

4月の入学選抜（第1学年）においては、「帰国枠」「一般枠」という枠を設けていません。選抜検査においては、受検者自身が、A方式とB方式のどちらかを選択して受検することができます。審査内容を検討し、それぞれの受検生に合った方式で出願してください。

編入学選抜は帰国生のみを対象に行っています。帰国後または来日後1年以内であること（後期課程では4年4月を除いて半年以内）、さらに、海外にある教育機関に在籍していた期間が連続して1年間と1日以上であることが条件となっておりますのでご注意ください。応募資格の詳細は募集要項をご覧ください。

### Q2. 後期課程（高校）からの編入はできますか？

#### A2. はい。全ての学年で帰国生を募集しています。

4月編入学では、第2学年から第6学年まで、9月編入学では第1学年から第5学年まで出願することができます。

毎年各学年に4月・9月それぞれ数名の生徒が編入してきます。常に新しい仲間たちを受け入れる態勢があります。

### Q3. 募集要項はどのようにして入手したら良いですか？

#### A3. 本校事務室や学校説明会で配布しています。また、本校のウェブページからもダウンロードできます。

### Q4. 海外から国内の学校に編入した後に、編入学することはできますか？

#### A4. 国内中学校からは受検資格がありますが、国内の他の高校に編入した場合はありません。

編入学の応募資格の条件を必ずご確認ください。

### Q5. 入学者はどのように決定しますか？

#### A5. 書類審査・作文審査または適性検査・面接の結果を点数化した総合成績をもとに、決定します。

それぞれの項目の満点は以下の通りです。

書類審査	100点
作文検査（A方式・編入試）または適性検査（B方式）	100点
面接	50点
総合成績	250点

### Q6. 不合格の場合、再受検はできますか？

#### A6. 応募資格を満たしていれば、できます。

### Q7. 書類審査とは何ですか？

書類審査では、多様なバックグラウンドを持った受検者の皆さんについて、志願理由書、報告書（または成績証明書）、活動実績申告書を通じて本校への適性を判断します。

志願理由書では、国際化する社会の中で、どのような夢や進路を考えているのか、そのために6年間の一貫教育で何を学ぼうとしているのかといった、目的意識や意欲を審査します。報告書（または成績証明書）ならびに活動実績申告書では、学業成績に加えて、どのような活動をおこない、何を習得してきたのかを審査します。

### Q8. 面接はどのように行われますか？

面接は、集団で行います。面接では、受検者の目的意識や意欲とともに、コミュニケーション能力、知と心のバランスを審査します。よって、指定されたテーマをもとに集団で討論いたします。面接での使用言語は原則的に日本語です。また、質問事項は外部には公表しておりません。

### Q9. 外国語作文のためにどのような準備をすればいいでしょうか？

A方式・編入試の外国語作文では、外国語を使って豊かな発想にもとづき、自分の考えや意見を筋道立てて構成できるか、といった思考力に着目します。

準備としては、現在の学校での学習をしっかり行い、また日常的に身の回

### Q12. 前期課程から後期課程への移行時に試験はありますか？

#### A12. ありません。

本校は中等教育学校ですので、全ての生徒が前期課程修了時に後期課程へと進学することができます。

### Q13. 学校や生徒の様子を見学する機会はありますか？

#### A13. 学校説明会やスクールフェスティバルにお越しください。

2015年度は以下の日程で学校説明会を行います。学校説明会では、学校生活全般や入学選抜に関する説明、卒業生によるパネルディスカッションのなどを行う全体会（7月・9月）に加えて、生徒たち自身がISSでの生活についてプレゼンテーションを行うキャンパスツアーや、個別の質問に教員がお答えする個別相談、公開授業（10月）を行う予定です。学校や生徒の様子を見学することができますので、ぜひご参加ください。学校説明会についての詳細・申し込み方法については本校ウェブページをご参照ください。また、毎年9月に実施しております、生徒主体のスクールフェスティバルは一般に公開しております。こちらも併せてご来校ください。

本校では一時帰国や本帰国のタイミングが学校説明会に合わない帰国生のご家庭を対象に、平日、個別の帰国相談も行っています。ご希望される場合は事前予約が必要ですので、お電話またはメールでご連絡ください。

## 2018年度 学校説明会 / School Festival日程

イベント	日程	内容	事前申し込み
学校説明会①	7月21日(出)	全体会・ブースプレゼンテーション 個別相談会	必要 (ウェブページ)
学校説明会②	10月13日(出)	公開授業・ブースプレゼンテーション 個別相談会	
School Festival	9月15日(出) 9月16日(日)	スクールフェスティバルの 見学・参加	不要

りの出来事に目を向けて、自分なりの考えをもち、それらを受検言語で伝えられるようにしておいてください。現地の学校での多様な人々との学びや経験を大切にすることが、本校の受検の準備となり、さらには入学後にも十分活用できる基礎基盤となります。評価の観点の詳細については、アドミッション・ポリシーをご覧ください。

### Q10. 適性検査とは何ですか？

B方式の適性検査では、世界に通じる学力と教養を習得する素地として、問題を見いだす力と問題を解決する力を検査します。問題を見いだす力では、様々な事象に対して探究心があるか、分析的にとらえられるかといった点に着目します。問題を解決する力では、論理的に考えられるか、多面的に解釈できるか、自らの考えを表現できるかといった点に着目します。適性検査Ⅰでは、自然環境等に関して、多角的な視点から考える問題、実世界のさまざまな場面において、数理的に考え、対処する問題を設定します。適性検査Ⅱでは、社会問題等に関わる資料から問題を見だし、自らの考えを表現する問題を設定します。

### Q11. 基礎日本語作文ではどのような力が問われますか？

A方式・編入試の基礎日本語作文では、これまでの経験や身につけてきた知識をもとに、自らの考えを適切に表現することができるか、といった言語運用能力を審査します。

詳細に関しては、募集要項やアドミッション・ポリシーをご覧ください。

### Q14. IBのプログラムは全員が受けるのですか？

#### A14. 第1学年から第4学年の生徒全員がMYPを受けます。第5学年と第6学年では、選択した生徒のみがDPを受けます。

本校は2010年度より、第1学年から第4学年の全課程において国際バカロレア機構（IB）の提供する中等教育プログラム（MYP）を導入・実践しています。2016年度からは、第5学年と第6学年の希望する生徒を対象に（校内選考あり）、一学年約15名での英語と日本語によるディプロマプログラム（DP）を開始しています。

### Q15. 習熟度別の授業はありますか？

#### A15. 英語は第1学年から、数学は第4学年から、習熟度別のクラス編成になります。

第1学年から始まる英語やLEの授業は習熟度別のクラスで、約10名から20名程度で実施しています。前期課程はアドバンスト（海外現地校での言語・文学の授業を受けてきた生徒を対象）、コア（英語学習未経験者～1年未満の生徒を対象）の2クラスです。4年生からは、アドバンスト、ベーシック、コアの3クラスの中から生徒が自分で選択します。5、6年生は進路や興味関心に応じて、1科目につき3～5種類のクラスから選択します。各クラスではそれぞれの生徒のバックグラウンドに応じたきめ細やかな指導が可能です。

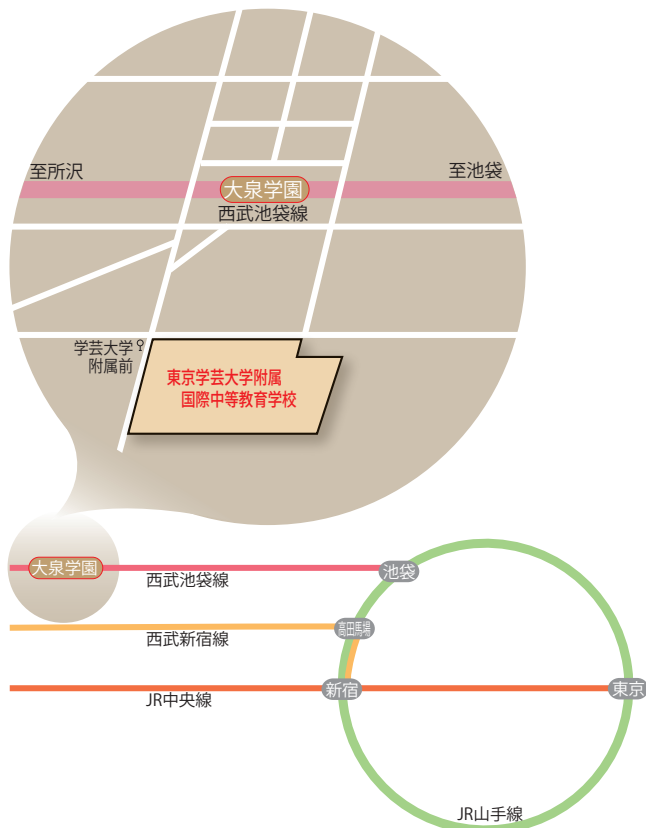
数学では、第4学年から習熟度別・少人数クラスでの学習になります。ひとりひとりの生徒の学習を、担当者が支援します。

### Q16. 学費はかかりますか？

#### A16. 前期課程は、授業料は発生しません。後期課程では、年間11万5千円程の授業料を徴収させていただきます。

本校では、1学年から4学年までIBのMYPカリキュラムで授業を行っていますが、前期課程の授業料は発生しません。1年生入学の場合、教育活動助成金や教育文化基金などの諸経費約28万円(3年間)に加えて、行事や教材にかかる費用を別途徴収させていただきます。後期課程に進級すると、就学支援金を含めない場合、授業料約11万5千円(年間)、諸経費約21万円(3年間)に加え、行事や教材にかかる費用を別途徴収させていただきます。(後期課程から編入する場合は諸経費約28万円)5、6年生でDPを選択した生徒は、約50万円(年間)を別途徴収させていただきます。





## Access

**電車** 西武池袋線「大泉学園」駅下車 徒歩8分

**バス停** ○「学芸大附属前」下車

- ・吉祥寺駅（武蔵関経由）より「新座栄」行・「大泉学園駅南口」行
- ・西荻窪駅（上石神井経由）より「大泉学園駅南口」行
- ・上石神井駅より「長久保」行
- ・阿佐ヶ谷駅より「長久保」行



## 東京学芸大学附属国際中等教育学校

〒178-0063 東京都練馬区東大泉5-22-1

TEL 03-5905-1326 FAX 03-5905-0317

URL <http://www.iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp>

E-mail [office@tguiss.jp](mailto:office@tguiss.jp)

[admissions@tguiss.jp](mailto:admissions@tguiss.jp) (入試問い合わせ専用)

2018 (平成 30 年度)

生徒募集に関する学校説明会日程

第1回 7月21日(土)

第2回 10月13日(土)

スクールフェスティバル

9月15日(土)・16日(日)

詳細は本校ウェブサイトをご覧ください。

海外教育体験者対象の相談は、

メールまたは電話で随時受け付けております。